

子どもの学びを支える「かかわり」を

全日本私立幼稚園連合会 会長 香 川 敬



新年にあたり、全ての子どもたちの成長と各園のご発展を心からお祈り申し上げます。

昨秋、澄み切った青空の下に行われた運動会で、子どもたちが鮮やかに躍動する様子を目にすることができました。隣にいる仲間の息遣いを感じ取り、温もりをしっかりと掴みながら自分の動きを調整している子どもたち。懸命に走り抜いた子どもを中腰のまま両腕で抱きとめ、語り掛ける先生。戸惑う子どもの姿を素早くキャッチし、側に駆け寄る見事な気働き。まさに、運動会は日々の教育・保育の丁寧な積み重ねの集大成なのです。先生方が柔らかな眼差しでそれぞれの子どもの個性的な動きや表情を見取りながら指導に当たられていることが、保護者や地域の人たちに正しく届いたと確信した次第です。

幼児教育無償化が2019年10月から実施されます。巨額の財政措置に伴い、認可施設としての公的責任が問われ、無償化実施後の幼児教育の質の向上への期待と要請が高まることは必至で、「学校評価」とその「見える化」は避けて通れないと考えます。それだけに、よりよい幼児教育の実現を図るためには、各々の園独自の、その園ならではの教育課程の編成と実施が課題となってくるのです。

そこで、教育課程を具現化していく時、子どもの「学び」を支え、見守る私たちが心に留めておきたいことがあります。

子どもの発達と教育に関する研究において、子どもが「背伸び」する場を設定していくというかわりかかわりが子どもの発達を大きく促し、学びの可能性を拡大させると言われています。仲間同士のかかわりは勿論のこと、周囲にいる大人の援助・応答による支えや、複数の視点を手にすることにより、子どもは更に大きく育つことができるのです。

細部までこだわり、緻密に考え抜かれた計画を立て、先生が自分の信じた方向に子どもを正しく導くことが、所謂「原則」ではあります。しかし、その一方で、子どものその都度その都度の思いがけない発言や、行動の発達の意外さに心から驚き、そのおもしろさを喜びながら、受け入れ支えていくことが、子どもの学びの可能性を伸ばす時に大きな働きをします。そのような「かかわり」をしていこうとする情熱こそが、確実に子どもの学びの可能性を伸ばすのです。

子どもの学びを支えるためには、一つの主題に沿った保育が終わった時、「予定通りに進んだぞ」という形の振り返りだけで満足しないことです。予め想定していなかった、計画通りではなかったけれど、つい変更したらできるようになったことなどを互いに出し合い、その時にどのような「かかわり」方をしたかをつぶさに思い出し検討していく。表情の見取り、つぶやきの聴き取り、掛けた言葉などを通して、どのように子どもを支えたか、それを丁寧に掬い出してみます。そこでのかかわりはきっと「受容的・呼応的」なものであった筈であり、そうした場面で子どもはまさしく「本気で」ぶつかり、自分の中に新たな意味を創り上げていくに違いありません。

子どもたちが大人になって迎えるであろう世界は、多くの課題や混沌とした状況を孕んでいるかもしれません。その中であって、創造力の豊かさや力強さを発揮し生きていけるよう子どもの学びを見守りたいと考えます。先生方の子どもへの「かかわり」そのものを、子どもが成長していく環境の要素の一つとして捉え、子どもとの「かかわり」の中によるこびを見い出す姿勢を持ちたいものです。